

三重・杉垣内遺跡

すがいと



(二本木・松阪)

所在地
三重県松阪市深長町

1 在地

2 調査期間
一九八六年（昭61）七月～一月

3 発掘機関
三重県教育委員会

4 調査担当者
河瀬信幸

5 遺跡の種類
集落跡

6 遺跡の年代
弥生時代後期～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

杉垣内遺跡は、松阪市街地から西へ約三・五kmの標高約一八mの堀坂川により形成された扇状地扇端部に位置する。周辺には前期古墳を含む古墳群や奈良時代

から平安時代を中心とする遺跡が多く、松阪市最大の遺跡密集地帯である。一九八四年から実施されている発掘調査を実施した。

8 木簡の釈文・内容

(1) □村 七月廿×

(81)×24×2 081

「七月廿」は赤外線カメラにより釈読した。「村」の上に一文字認められるが、判読は困難であった。

(河瀬信幸)



期～平安時代初期の堅穴住居・掘立柱建物・井戸、平安時代前期の井戸、弥生時代後期から鎌倉時代まで存続したと考えられる旧河道などを検出した。平安時代前期の井戸からは、人形や斎串が出土し、旧河道からは建築部材や日用品などの木製品、人形・刀形・斎串・馬形・陽物などの木製祭祀具、土馬などの土製祭祀具が大量に出土した。また墨書き器も多く出土し、その内一点は「船女」と判読できる。木簡はこの旧河道内より前記の遺物等とともに出土している。